

川崎市の多摩川土手に発生したホソオチョウ

高桑正敏・中村一恵・新井一政

Masatoshi TAKAKUWA, Kazue NAKAMURA & Kazumasa ARAI: Occurrence of an Alien Butterfly, *Seriginus montela*, along Tama-gawa of Kawasaki, Japan

ホソオチョウ *Seriginus montela* GRAY は、元来は中国大陸からウスリー、朝鮮半島にかけて分布する 1 属 1 種のいわゆる異型アゲハだが、1978年に東京都日野市から記録されたのを皮切りに、東京都および山梨県の各地、埼玉県の一部などで発生が確認されるに至った。本種が各地で発生するに至った背景には、意図的な放蝶などきわめて強い人為が働いていると考えられている。また、その形態などから原産地は韓国と推定されている(亜種名は subsp. *koreanus* FIKSEN)(以上、主に原, 1984; 猪又, 1986)。

神奈川県においては1980年に津久井郡藤野町で初めて発生が確認された(原, 1984)が、隣県の山梨や東京都と異なり、その発生地は藤野町内に限られてきているようである。しかし、1991年8月29日に神奈川昆虫談話会の大森武昭氏から、本種らしいチョウを川崎市幸区の多摩川土手で多数見かけたとの報を受けたので、翌8月30日に現地を訪れたところ、筆者らも土手の700—800mに渡って本種の発生を確認できた。当地も意図的な放蝶によって発生したものと推定され、わざわざ記録することに疑問を感じないわけではないが、環境的にみて土手沿いに分布を拡大する可能性も考えられるため、あえてここに記録し、今後の動向に注意をお願いするものである。

本文に先立ち、情報をお寄せ下さり、発表を快諾された大森武昭氏に厚く感謝申し上げたい。

採集記録: 6♂6♀, 川崎市幸区小向, 30. VIII. 1991, 高桑採集(神奈川県立博物館蔵)

筆者らが確認した発生地を図1, 2に示す。多摩川の土手の斜面のところどころに本種の食餌植物であるウマノズクサの群落があり、これらが本種の発生源となっていた。興味深いことに、食餌植物群落におけ

るホソオチョウの利用度はさまざまであり、まったく食された形跡のないものから、食痕を確認するのが困難なほど過剰に食されていた場所(図2: 緩やかな短い斜面となっている堤内地)まであった。このことから、当地における発生がきわめて最近のことであることがうかがわれる。なお、ここは少なくとも年1回は草刈が行われているようで、草丈は低く抑えられ、ウマノズクサも2次伸長したものと考えられる。同様な環境は上流方面に続いているものと予想されるが、多摩川大橋より下流しか調査していない。

発生状況はきわめてランダムであり、羽化中の個体から汚損したものまで、また卵から終令幼虫と思われるものまで、蛹を除くほぼ全ステージが見られた(図3—6)。当日はかなり強い風があったためか、飛翔個体よりむしろ食餌植物群落近辺に静止中のものが多いように思われたが、近づくとも飛び去るものが大部分であった。飛び去った一部は風にあおられるように土手から遠く離れていった。また、当地は若干のシオカラトンボが見られたが、このトンボがホソオチョウを捕食中のものを3人で計10例ほど目撃したので、かなりの捕食圧を加えているものと推定される。さらに、カニグモの1種による捕食も1例観察された。

なお当日、筆者らと大森氏以外にも捕虫網を持っている人がいた。通常感覚では場所的に稀なケースだ

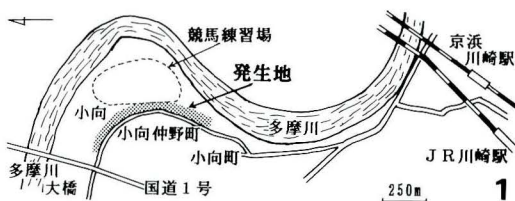


図1. 川崎市多摩川土手におけるホソオチョウ発生地点



図2. 川崎市多摩川土手におけるホソオチョウ発生地点. 最も発生個体の多かった堤内地

と考えられるので、あえて触れておく。一人はトンボに関心を持つという中学生で、たまたま見慣れぬチョウがいたので採集していたと言う。さらに、自転車を引いた高校生とおぼしき男女が通りかかったが、捕虫網を広げることはなかった。後者とは会話を交えていない。

いずれにしろ、多摩川土手はホソオチョウが生息可能な環境下にある。今後の発生状況を見守るとともに、どこまで分布を拡大するのかを追跡調査しておかねば

ならないだろう（あるいはすでに多摩川大橋より上流方面で発生済みなのかもしれない）。

引用文献

- 原 聖樹, 1984. 神奈川県に野生化したホソオチョウ. 神奈川自然誌資料, (5): 11-16.
 猪又敏男編著, 1986. 大図録日本の蝶. 499pp, 竹書房, 東京.

(神奈川県立博物館)



図3—6. 同地のホソオチョウ：3. 交尾個体（上：♀，下：♂）；4. 羽化してきた♀；5. 食餌植物であるウマノスズクサ（左：前世代の幼虫によって著しく被害を受けている）と食餌植物でないヤブガラシ（右）に産付された卵塊；6. 終令幼虫